

1 年上彼氏と食後のまったりタイム

和上京鈴

4 「登場人物」

5 戸倉（とくら）：男性。ダンサー。主人公より年上。落ち着いていて情に厚い。

6 主人公：声無し。女性。面倒見がいい。

10 ○マンション・主人公の部屋（夜）

12 * 1LDKの部屋。キッチンで食器洗いをしている主人公、その隣で食器を拭いて
13 いる戸倉。

15 * SE：主人公、食器を洗い流している

16 * SE：食器を拭く戸倉

18 戸倉 「あとは、その皿で終わりかな？ 今夜はいっぱい作ってくれたから、洗い物も大
19 変だね」

21 * SE：布擦れ（主人公「そうですね」）

23 戸倉 「それにしても、美味しかったなあ、豆腐のハンバーグ。明日の公演も頑張れそう」

25 戸倉 「君って、本当に料理上手だよね。付き合い始めた頃よりさらに進化してるし。毎
26 週楽しみにしてるんだ」

28 * 主人公「ふふ、ありがとうございます」

30 戸倉 「でも……ごめんね、君にばかり洗わせて。俺、皿拭いて戻すことしかしてないや」

32 * SE：布擦れ（主人公「いいんですよ。手はダンサーにとって大事でしょう？」）

34 戸倉 「それはそうなんだけど……手を綺麗に保つためなら、例えばゴム手袋しながら
35 じゃ……」

37 *SE:主人公、水を止める
38 *SE:主人公、洗い終わった皿を戸倉に渡す
39 *主人公「はい、お皿」
40
41
42 戸倉 「あ……はいはい」
43
44 *SE:戸倉、皿を受け取り布巾で拭く
45
46 戸倉 「そうやってすぐにはぐらかすんだから……俺は、君に気を遣わせたくないだけ
47 なんだよ?」
48
49 戸倉 「第一、好きでダンサーしてるわけだし。体に傷をつくるつくらないっていうのは、
50 俺が責任を持つことなんだから」
51
52 *SE:布擦れ(主人公「私も好きでこうしてるんです。だから気にしないで」)
53
54 戸倉 「……もう、相変わらず頑固だね、君は」
55
56 *SE:戸倉、拭き終えた皿を食器棚に戻す
57
58 戸倉 「……これでよしと。それじゃあ……」
59
60 *SE:戸倉、主人公の腰に手を回す
61
62 戸倉 「ちよつとこつち、来てくれる?」
63
64 *戸倉、主人公をリビングのソファへ連れていく。
65
66 *SE:二人の足音
67 *SE:ソファに座る二人
68
69 戸倉 「(ソファに座って)……で、これですよ、これ」
70
71
72 ※SE:戸倉、懐から封筒を取り出す

73 戸倉 「じゃーん、約束してた今週末の公演のチケット。……仕事忙しいみたいだけど、
74 見に来れそう？」

75
76 *SE…布擦れ(主人公「ありがとうございます！もちろん行きますよ」)

77
78 戸倉 「ふふ、じゃあちゃーんとかっこいいとこ見せなきゃ」

79
80 戸倉 「開演しても他の男に目移りしちゃ駄目……って言いたいけど、やっぱりステー
81 ジ全体を見てて。君には、俺が踊ってるその空間すべてを感じてほしいから」

82
83 *SE…布擦れ(主人公「はい、隅々まで見ますね」)

84
85 戸倉 「うん、ぜひ隅々までご堪能ください」

86
87 *戸倉、穏やかな表情で。

88
89 戸倉 「……君が見てくれるって思ったなら、ますますやる気が出てきたよ。緊張もするけ
90 ゝ」

91
92 戸倉 「舞台は生ものだからね。不安定だし、常に完璧な演技ができるとは限らない。だ
93 からこそ、多少の緊張感とか、毎日の健康管理や睡眠、それに……」

94
95 *SE…戸倉、主人公の肩に頭をのせる

96
97 戸倉 「こういう癒しの時間とか。そういうたものを大切にしていって、コンディションを整え
98 ておかないとな」

99
100 *SE…布擦れ(主人公「私も、戸倉さんが最高のコンディションで公演に臨める
101 ように協力します」)

102
103 戸倉 「君はとっくの昔から協力してくれてるよ？ だからもう……いや、待てよ」

104
105 戸倉 「もしかして……料理をもっと頑張るようになってくれたのは、俺の体のため…
106 ……とか？」

107
108 ※SE…主人公、頷く

109
110 ※戸倉、照れて。
111

112 戸倉 「……そっか。それはなんていうか……凄く嬉しい。俺は愛されてるね、ありがと
113 う」

114
115 戸倉 「けど、君には甘えてばかりな気がするな。何か俺にお返しさせて」

116
117 戸倉 「そうだ。食洗器とかどう？ 洗い物の手間が省けるでしょ」

118
119 *SE…布擦れ（主人公「でも、ここ賃貸ですし……」）

120
121 戸倉 「大丈夫。工事がいらぬ卓上タイプのやつもあるから。それなら賃貸でも置ける
122 よ。ああ、でも……」

123
124 *戸倉、キッチン周りを見て。

125
126 戸倉 「……置けそうなスペースがないか……けっこう場所とるらしいんだよね。うー
127 ん……」

128
129 *戸倉、少しの間考えて。

130
131 戸倉 「じゃあ、いつか俺と君と一緒に暮らすようになったら置こう？」

132
133 *SE…布擦れ（主人公「えっ!？」）

134
135 *戸倉、苦笑して。

136
137 戸倉 「どうしてそんなに驚くの？ そんな日が来たって全然おかしくないでしょ」

138
139 戸倉 「俺たち、付き合って結構長いしさ。そろそろそういうこと考えてみてもいいんじ
140 やない？」

141
142 戸倉 「ねえ、君はどう思う？」

143
144 *SE…布擦れ（主人公「私も……そう思います」）

145
146
147 *戸倉、嬉しそうに。

148 戸倉 「ありがとう。それじゃあ、話の続きは……お風呂でしょっか。さっき沸いたみた
149 いだし」

150
151 *主人公、恥ずかしがって。

152
153 *S E : 布擦れ (主人公「い、一緒に入るんですか?」)

154
155 戸倉 「えー? 俺は一緒に入るものだと思ってたけど……今日はやめておきたい?」

156
157 *S E : 布擦れ (主人公「そういうわけじゃ……ないです」)

158
159 戸倉 「そう。なら……その恥ずかしがってる姿、あっちでも見せてもらおうかな。ふふ」

160

161
162
163

FIN